

新小学校学習指導要領(外国語科・外国語活動)のポイント

小学校では身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う

教科化(高学年) 新小学校学習指導要領 (第10節 外国語) ※一部抜粋

第1 目標

(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 **読む・書く**

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 **読む・書く**

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第2 各言語の目標及び内容等

英語

1 目標 5領域

(1) 聞くこと
ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

(2) 読むこと **読む・書く**
ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(3) 話すこと[やり取り]
ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問したり質問に答えたりして

(4) 話すこと[発表]
イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと **読む・書く**
ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 **読む・書く**
ア 音声 イ 文字及び符号 (ア) 活字体の大文字、小文字
ウ 語、連語及び慣用表現 (ア) 外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
エ 文及び文構造 **語彙**
(ア) 文 e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの
f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 **5領域**

① 言語活動に関する事項
ア 聞くこと イ 読むこと ウ 話すこと[やり取り] エ 話すこと[発表] オ 書くこと

② 言語の働きに関する事項

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) ウ 外国語活動を履修する際に扱った基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

(2) ア 児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。 **受容と発信**
ウ (イ) 文法の用語や用法の指導に偏ることがないよう配慮

(3) ア 教材は1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、各教材の中で明確に示すその他の外国語 **教科書改善**

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

早期化(中学年) 新小学校学習指導要領 (第4章 外国語活動) ※一部抜粋

第1 目標

(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声との違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 **慣れ親しみ**

(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第2 各言語の目標及び内容等

英語

1 目標 3領域

(1) 聞くこと **3領域**
イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

(2) 話すこと[やり取り]
ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

(3) 話すこと[発表]
イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。
ア 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。
イ 日本と外国の言語や文化について理解すること。 **動機づけ**
(ア) 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。 **慣れ親しみ**

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 **3領域**

① 言語活動に関する事項 ア 聞くこと イ 話すこと[やり取り] ウ 話すこと[発表]

② 言語の働きに関する事項

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) ウ 友達との関わりを大切に体験的な言語活動を行うこと。
オ 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い



中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機づけを高めた上で(年間35単位時間程度)、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に教科として学習を行う(年間70単位時間程度)